

旋

家忠日記增補

十五

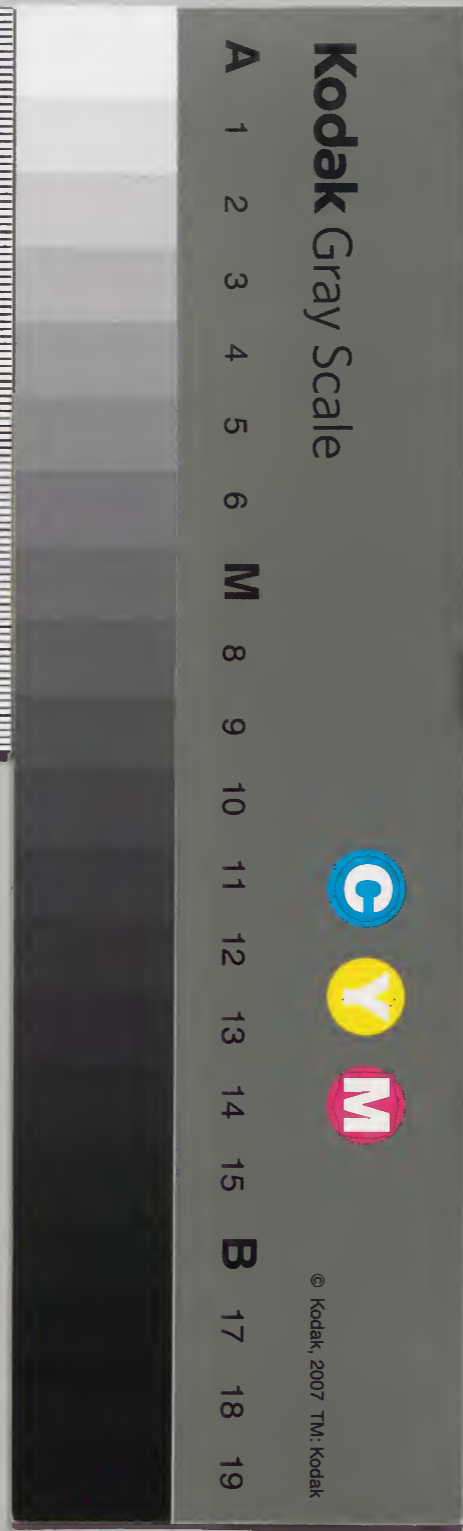
内閣文庫			
一函	三册	三三四七八號	和書類
三架	二五册		

(五-一)



内閣文庫			
番號	和	32478	
冊數	25(15)		
函號	163	60	

共廿五



庚子年五月

依此

...

...



家忠

日記追加卷之十五

自慶長五年八月朔
九日

慶長五年庚子

八月小

一日

伏見

ノ城兵長原ノ族敵ニ内應メ

城ニ火ヲ放テ寄手ノ多勢ヲ城中ニヒキ

入ル黎明城既ニ半焚ク城兵力ヲ尽スト

云ヘトモ内外ノ大敵防ギ難キニ依テ諸

士皆大手ノ城門ニ相集テ是ヲ支ヘント



欲ス時ニ松平主殿助家忠名イト黒糸ノ鎧ヨロイニ桃
ノ冑カブトヲ著シチヤウ累代傳ル所ノ名劍メノケン利刀リタウヲ帶ツク
メ士卒シノソウヲ指揮シキメ奮戰フルイタカフ此ニ島津ガ部將ベウシヨ
別所下野守ト名乗テ築地ノ邊ニ進ム主
殿助家忠ヤリヒツサ提ヒツサゲ突テ出忽タケマケニ別所ヲ追拂ツク
フ其後家忠軍士グレンシヲ左右ニ携ツクエ城中ヨリ
進テ出勇ユウヲ震スニ術ジツヲ尽メ苦戰クゼンシ敵ヲ追
ニ退ヒツクル事三回敵敢テ近チカツク事ヲ得ズ然

リト云ヘトモ家忠左ノ腋ワキニ疵キズヲ被リ敵
ニ相當アヒアタル事數度ニメ戰ツカヒ疲ツカレヌ是ニ依
テ城中ニ歸リ入テ從卒ジュウソウヲメ競キツヒ來レル
敵ヲ追ツクヒ退ヒツクケ家忠遂ニ自殺シコトス于時四十六歳家
忠ガ從士松平九七郎島田久助大原九郎
次郎同姓長七郎鴉ウツク殿藤三郎原田内記王
浦右衛門八松平理久原田清七郎酒井助
太夫宇野久四郎服部八藏ヨコフチケクミササ横落熊藏酒井

猪之助越山甚一即同姓喜太夫稻吉清助
等八十五騎皆戰死ス伏見ノ城ニ籠ル所
ノ軍勢或ハ戰死シ或ハ自殺シ城遂ニ陷
ル主殿助家忠ガ首ハ島津カ部將別所下
野守是ヲ得タリ鳥居彦右衛門尉元忠時于
六十首ハ鈴木孫三郎是ヲ擊捕ル松平五
左衛門尉近正于時五首ハ筑前中納言秀
秋ガ從卒日夏角助田島甚右衛門尉相擊

ニス佐野肥後守ハ二重込ノ鉄炮ヲ放テ
其筒サケテ横死ス駒井猪之助ハ敵ニ紛
レテ城ヲ出奔ス安藤次右衛門尉定次左
ノ股ヲ射貫レ其矢ヲ抜テ奮戦テ遂ニ死
ス又上林竹菴戰死ス若狭少將勝俊後長
号 大神君ノ 命ヲ奉テ伏見ノ城ニ加
リ守ルト云ヘトモ敵イマダ城ヲ圍メガ
ル以前ニ城中ヲ出テ政所ノ亭ヲ守護シ其

後若州ニ赴ク是所領テ天下統一統ノ深尾
清十郎ハ城ヲ出テ逐電ス伏見ノ城陥ル
事一偏ニ深尾ガ守ル所ヨリ敵ヲヒキ入
レ城ニ火ヲ放ツニ依テ也故ニ混一ノ後
遂ニ斬罪セラル
此日上方ノ逆徒退治トメ江城ヲ進發ス
ルノ軍勢先陣ハ福島左衛門大夫正則ニ
命ゼラル檢使トメ井伊兵部少輔直政本

多中務太輔忠勝是ニ相副ラル其餘ノ
軍勢池田三左衛門尉輝政淺野左京大夫
幸長羽柴越中守忠興田中兵部少輔長正
東極修理太夫中村彦左衛門尉九鬼長門
守守隆蜂須賀長門守至鎮此西人親ハ逆
大神君ノ麾テラザル寺澤志摩守廣高黒田甲斐守
下ニ屬ス
長政加藤左馬助嘉明山内對馬守一豊堀
尾信濃守忠氏生駒讀岐守一忠稻葉藏人

通道右田兵部少輔重勝戸川肥後守達安
木多同幡守亀井武藏守等五萬餘騎江城
ヲ發ス

遠州懸川ノ城ハ山内對馬守一豊ガ居城
ナリ此城ヲ以テ大神君譜代ノ士ニ相
渡メ一豊質シ小田原ノ城ニ遣ス是ニ依
テ東海道ノ諸將等止ム事ヲ得ズメ城々
ヲ避ケ渡シ各質ヲ獻ズ是一豊ガ忠義ノ

計略タルノ旨大神君大ニ是ヲ感稱シ
給フ此日信州木曾ノ士馬場半左衛門尉
昌次山村甚兵衛尉千村平右衛門尉麾下
ニ屬メ小山ニ在リ大神君彼ノ三人ヲ
御前ニ召メ石川備前守ハ木曾ノ代官タ
リ今度逆徒ニ與スルノ由其聞ヘアリ汝
等速ニ本國ニ馳歸テ軍忠ヲ勵シ石川ヲ
誅伐スベキノ旨 鈞命ヲ蒙リ千村出村

則小山ヲ發メ信別ニ赴ク馬場ハ暫ク小
山ニ留メラレ木曾表一戦ノ謀ヲ猶委ク
馬場ニ命ゼラル其後馬場木曾ニ赴ク
木曾中ノ諸士ニ大神君ヨリ御朱印ヲ
賜ル本多佐渡守大久保十兵衛尉是ヲ奉ル
信別木曾中諸侍ハ先觀シ石馬場
名義ニ有テは之ノ以テ忠義於山村甚矣
木曾馬場ニ有テは之ノ以テ忠義於山村甚矣

ト作也

慶長

八月朔日

木曾

諸を人中人

木方勘兵衛尉去年ヨリ佐竹ガ領内ニ蟄
居ス彼レガ罪ナキノ旨露顯スルニ依テ
大神君木方ヲ小山ノ御陣營ニ召メ謁ス
木方ハ羽柴肥前守利長ガ親族タルニ依
テ大神君ヨリ御使トメ木方ヲ賀別ニ

遣ハシメ給フ

是ヨリ先羽柴肥前守利長 大神君ノ御

味方タルニ依テ東國ノ手合トメ賀州金

澤ノ城ヲ發メ漆川手取川ヲ涉テ三田山

ニ陣ス小松ノ城 丹羽五郎左衛門尉長重是ヲ守ル 拒ギト

メ岡島備中守ヲ爰ニ留置キ是ヲ守ラシ

メ順路ヲ避ケ湯山越ヘシ經テ馳行此日

ニ至テ利長及ヒ庶弟孫四郎利政師ヲ帥

テ山口玄番頭ガ楯籠ル大聖寺ノ城ヲ攻

ント欲ス小松ノ城ヨリ輕卒ヲ出メ瀉ヨ

リ船ニ乘メ利長ガ後陣ニ鉄炮ヲ放チカ

クル利長ガ軍勢歸馬村ニヒキ入ル然ル

處ニ小松ノ介候御幸塚ニ在ル味方ヲ敵

ト見誤テ小松ノ輕卒ヲヒキ退カシム利

長ガ軍士是ニ乘メ炮ヲ飛シ矢ヲ發メ是

ヲ追撃シト競ヒ懸ルト云ヘトモ日既ニ

黄昏ニ及ブノ間長途ヲ追事ヲ得ス兵ヲ
収ム又大聖寺ノ城ヨリ輕卒ヲ鯨橋ニ進
メテ利長ガ兵ヲ相支ヘント欲ス利長ガ
軍勢鉄炮ヲ放テ是ヲ追ヒ退リ此日
大神君小山ノ御陣營ヨリ脇坂淡路守安
治ニ御書ヲ賜ル

山邊道河津下ノ書状枝見迄意之候祝意
作軌上方忽劇後路次子海之松山孫父

子相談堅固之由至如要之近日之
浪之糸お松子之河心易作松城織部
うらみ糸之者略水之流

八月朔日 家康

脇坂淡路守

二日 羽柴肥前守利長ガ軍勢進テ大聖
寺ノ町口ヲ破リ城中ニ攻入ル城兵山下
ニ出張メ是ヲ相支ント欲スルト云ヘト

モ寄手ノ猛勢競ヒ懸テ攻撃ノ間山下抱
難キニ依テ陣シ本城ニヒキ入ル

三日 前田孫四郎利政大聖寺ノ城鐘ノ
丸ヲ攻破テ城中ニ乱入ス城兵拒グ事ヲ
得ス城將山口玄番頭其子山口右京亮ヲ
始織田孫左衛門尉成田喜太郎飯田又六
郎松井宗助服部勘右衛門尉其子小一郎
青木弥吉島林五郎左衛門尉曰姓弥十郎

吉井吉兵衛尉市邊清兵衛尉河村三郎右
衛門尉同姓善九郎石川理右衛門尉相山
久三郎馬場五郎兵衛尉今村喜左衛門尉
福森藤藏河合八右衛門尉高屋平兵衛尉
竹林傳右衛門尉内藤右京亮藤島五左衛
門尉永井庄次郎中山六藏中村松左衛門
尉凡生孫四郎八木七右衛門尉塚田喜助
北尾新右衛門尉片岡萬助富田半左衛門

尉森新右衛門尉柳田兵右衛門尉飯田藤
助南太郎八物集女六右衛門尉吉田源太
郎藤堂三十郎固理以加藤内吉瀬村與兵
衛尉等五百餘人皆戰死ス大聖寺ノ城陷
ル寄手ノ軍兵ニモ命ヲ殞シ疵ヲ被ル者
其數多シ逆徒

是ヨリ先キ大谷刑部少輔吉繼比國表ノ
首將トメ手勢三千餘騎相從軍勢京極宰

相高次朽木河内守脇坂中務太輔其子淡
路守寺西下野守戸田武藏守其子戸田内
記平塚因幡守木下山城守同姓宮内少輔
奥山雅樂頭上田主水正赤座久兵衛尉等
二萬餘騎北國表ニ發向メ敦賀ニ至テ陣
ス越州北ノ庄ノ城ハ青木紀伊守逆徒ニ
與メ是ヲ守ル青木飛使ヲ敦賀ニ發メ告
テ云ク羽柴利長數萬騎ノ兵ヲ率メ大聖

寺ノ城ヲ圍テ是ヲ拔ント欲スルノ由其
聞ヘアリ大聖寺ノ城ニ籠ル所ノ兵微勢
也此城ノ落去日ヲ經ベカラス然ラハ利
長當城ニ攻来ルベシ速ニ援助ノ兵ナキ
ニ於テハ墨ヲ弃テ出奔セント欲スルノ
由追々ニ早馬ヲ馳テ是ヲ告ル此日ニ至
テ大谷吉継敦賀ヲ出テ鯖並ノ宿ニ至ル
ノ處ニ青木重テ檄ヲ飛メ今日巳ニ大聖

寺ノ城落去シ山口父子ヲ始籠城ノ軍士
等悉ク戦死ス是ニ依テ利長大聖寺ノ城
ニ入替ルノ間今日中ニ北ノ庄ノ城ニ援
兵ナキニ於テハ當城拒ギ守リ難キノ由
急ヲ告ル又越前國府ノ城ハ堀尾帶刀吉
晴去年ヨリ是ヲ領ス吉晴ハ遠州濱松ノ
城ニ赴キ府ノ城ニハ家臣等シメ是ヲ守
ラシム平塚目幡守赤座久兵衛尉大谷ヲ

諫^{イサメ}テ云ク府ノ城ヲ攻ズメ指置クニ於テ
ハ前後ニ敵ヲ受テ戦フ事難儀ナルベシ
先ツ府ノ城ヲ攻落メ後北ノ庄ノ援兵ト
メ彼表ニ相働クベキ事宜シカルベキノ
旨ヲ強テ諫ル大谷是ヲ許容セズ府ノ城
ヲ攻ント欲スルノ間ニ北ノ庄ノ城陷ラ
ハ小松ノ城主丹羽ノ長重モカヲ失フベ
シ其上府ノ城ヲ攻ルニ於テハ味方ノ軍

士モ多ク撃ルベシ假令又府ノ城ヲ攻テ
吾ガ兵多ク命ヲ殞サズ是ヲ安ク扱クト
云トモ此城ノ守リトメ味方ノ軍勢四五
百騎モ残シシカスハ有ベカラズ然ルニ
於テハ我ガ兵殊微勢カニメ大敵ニ向テ
戦ヒ難シ府ノ城ヲ攻ズメ敵ヲ籠置ク事
是幸ニ我ガ城ノ留主居タリ北國ノ敵ヲ
退治セバ府ノ城ハ干戈ヲ勞セズメ吾ニ

屬セシメニ事掌ヲ指ガ如シ暫クモ逗留
スベキニ非スト謂テ吉繼則兵ヲ發メ其
夜ノ寅ノ刻ニ及テ北ノ庄ニ至ル
常州水戸ノ城主佐竹右京大夫義宣ガモ
トニ 大神君御使トメ小山ノ御陣營ヨ
リ島田次兵衛尉ヲ指遣ハサレ義宣麾下
ニ屬メ軍忠ヲ竭スベシ此 命ヲ叛クニ
於テハ速ニ兵ヲ發メ御誅伐アルヘキノ

旨ヲ 命ゼラル義宣陳メ云 大神君ニ
全ク逆意ナシ然リト云ヘトモ質ヲ大坂
ノ城ニ置ク故ニ秀頼ヲ叛テ會津御進發
ノ供奉スル事大坂ノ聞ヘラ憚ル最モ王
成景勝等ト同意タルニハ非スト兩様一
決セサルノ返答シス是ニ依テ水戸表ノ
拒ギトメ水谷伊勢守勝俊皆川山城守廣
照野川鎬掛ニ屯ス其外ノ軍勢ヲメ佐竹

シ拒ガシメ給フ會津表景勝カ拒キトメ
結城王河守秀康結城ノ首將トシ伊達正
采城米澤ノ寂上出羽守義光羽州山形佐野
修理太夫野州佐野羽柴藤三郎秀行宇都
城ニ相馬長門守義胤奥州中村里見安房守
房州立山平岩主計頭親吉上州厩橋鳥居
左京亮忠政上總國矢作松平又八郎忠利
後主殿ト号ス下總松平新次郎一生後五左衛
國小養川ノ城ニ在

門尉ト号ス上野國松平勘四郎信一上州
三ノ藏ノ城ニ在
ノ城困部内膳正長盛野州郡須黒植村土
ニ在
依守泰忠上總國勝浦戸澤九郎五郎政盛
羽州林崎各其居城ヲ堅ク守テ景勝ガ勢
ノ城ニ在

四日 大神君小山二十日御滞座有テ東
國ノ令ヲ下シ給テ今日江城ニ還御

六日 石田治部少輔三成真田安房守昌

幸ニ一翰ヲ投ズ

去レ三日ノ所状ニ六日子別方ハ正

ト申シテ見ル

一先書ニ夜ノ中入非ト申シテ河ノ國一ヶ

國ニ仕立申シテ河ノ國一ヶ

家増右長人津善物ニ方合テト連旨

中作方ニ申シテ源志川中海

訪小徳甲州述ニ成志成礼弓矢

御方先ニテハ後上方書

子ニハ成作方ニ異成作若

悪意ニ申シテ成敗ニ名

相談ニ申シテ定作方ニ成

ら梅河日作方ニ成

且余ハ作成方ニ成

の成向ニ申シテ成

是恨ニ申シテ成

新地^{ニチハ}津^ハ飲^ハ曲^ク事^{コト} この事 依^ヨ

一 舍^ア津^ツ越^ス死^シ押^シ 此 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト}

一 越^ス 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト} 此 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト}

一 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト} 此 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト}

一 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト} 此 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト}

一 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト}

一 川^{カハ} 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト} 此 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト}

一 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト} 此 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト}

一 肥^ヒ 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト} 此 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト}

一 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト} 此 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト}

一 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト} 此 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト}

一 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト} 此 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト}

一 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト} 此 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト}

一 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト} 此 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト}

一 丹^ニ 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト} 此 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト}

一 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト} 此 依^ヨ 依^ヨ 事^{コト}

作也是越中と云 攻河内法度因河内者此
若輩之秀頼と申 搦取新比を以て是根
河内破書子居之坂作と焼討に申
付作

一先書に申作大坂西に丸 内府は
居る云又吾余居作と逃れを伏見
に城西に丸 輝元作と以後伏見
城守居る云馬松守に殿内方と申

秀大將と云八百余楯籠作と云
去日候に家系被悉討捕城中は敵
とハ此比臨荒作ら火と被不残一字
も焼拂作事

一内府令津伏作と云此敵候三方に
人救しては申す云此と抱ちる路を
以て登作事成しもの此小路は西に
と度右陣作上申云云内府は身と

寺公直長人回送ら昨日の事其
外甥が表也立る事し銀麻越と被
杉本魁元此を自取内府にお参る事
相込は是作時に入敷或方は此の御
出馬の事と相定作此也之入敷也
二日の前参國々分地登相志向は
仕至るて此の易作之今張玉葉
料入作之の取は後香頼て此の
大園

沙野に令張茶園は河後沙忠長に
之をこの下作と度伏見表も括作
九州京内府河州に拾万石と割符
度と引出令張は此の勘定は
一定して是の作水野和泉も三ヶ池
御右作威加野江は高と首志出
陣は之寄攻は海流八高利教和泉
も作之は此の地是常力居合之具是切

テ後進テ加賀越前ノ境細呂木ニ至ル然
ル處ニ利長ガ縁者中川宗伴ト云者アリ
大坂ヨリ賀刈ニ下ラント欲スル處ヲ木
谷吉繼是ヲ敦賀ニ押留利長ガモトヘ一
通ノ計狀ヲ書シム上方一同ニ蜂起メ敦
賀ヨリ軍船數千艘ニ取集リ近日賀刈ニ
乱入ス其慮有ルベキノ由ヲ書シメ宗伴
ガ士一人ニ此書簡ヲ持セ刑部少輔ガ軍

士ヲ少々是ニ相副テ遣ス是ハ宗伴ガ士
ヲ途中ニメ殺害センガ爲也此謀書ヲ細
呂木ニ至テ持来ル利長披見メ細呂木ヲ
殺メ兵ヲ金澤ニ収ント欲ス此節若シ小
松ノ城ヨリ兵ヲ出メ追ヒ撃事有ルベシ
ト察メ利長ガ臣山崎長門守高山南ノ坊
太田但馬守長九郎左衛門尉ヲ殿トメ御
幸塚ニ止テ小松ノ城ヲ拒ガシム

九日 丹羽長重小松ノ城ヨリ兵ヲ發メ
利長ガ後軍長九郎左衛門尉ガ陣ヲ擊ツ
九郎左衛門尉淺井暎ニメ返シ合セ小橋
ヲ隔テ挑戰フ此ニ於テ長重ガ軍士安孫
子作太夫富田小兵衛尉成田助九郎先陣
ヲ爭テ力戦ス利長ガ兵木越縫殿助蹈留
テ先ヲカケント進ム松平久兵衛尉岩田
傳右衛門尉大野甚之丞井上勘左衛門尉

上坂主馬助等相次テ各鎧ヲ合セ争戦フ
是ガ爲ニ小松勢突立ラレテ退散ス又金
澤勢モ戦疲レテ兩陣互ニ相ビキニス然
ル處ニ小松勢江口三郎左衛門尉暎ノ細
道ヲツタヒ山ニ登テ數刻敵陣ヲ相窺フ
ト云ヘトモ金澤勢數回ノ軍ニ疲労シ重
テ進ミ戦ハントモズ陣ヲ整ヘ屯ス
十三日 上方ノ逆徒退治トメ馳上ルノ

諸將等ニ大神君ヨリ御使トメ村越茂
助ヲ遣ハシメ給フ時ニ大神君吉田侍
從^{池田}及ビ池田備中守九鬼長門守等三
人各一紙ニ御書ヲ賜ル

之を元模板取度作るに村越茂助トシ
少談合るるに以て教作出ると成ハ油
之作の由り易水委細ト云ふ事
清

八月十三日 家康

吉田侍従及

池田備中守及

九鬼長門守及

十六日 石田三成兵ヲ大垣ヨリ發ス相
從フ輩備前黃門薩摩侍從島津中務太輔
小西撰津守熊谷内藏助垣見和泉守相良
富内少輔秋月長門守高橋左近大夫九毛

三郎兵衛尉木村捨右衛門尉其子傳藏等
二万三千六百餘騎

十九日 東國ヨリ馳上ルノ軍勢等尾州

ニ至テ屯シ 大神君ノ御進發ヲ相待ト

云ヘトモ御出馬遅々タルノ間諸將皆疑

心アリ然ル處ニ 大神君ヨリ御使トメ

村越茂助尾州清洲ニ至ル井伊直政本多

忠勝先ツ村越ニ來會メ御使ノ意趣ヲ問

フ村越其 命ヲ語テ云諸將其地ニ陣ス

ルノ由苦身ノ至也然リト云ヘトモ其戰

功ヲ聞カス諸將相議シ謀ヲ廻シ兵ヲ發

メ相戰カハシメ味方ノ證據ヲ速ニ顯ス

ニ於テハ吾快ク出馬スベシ若シ最初ノ

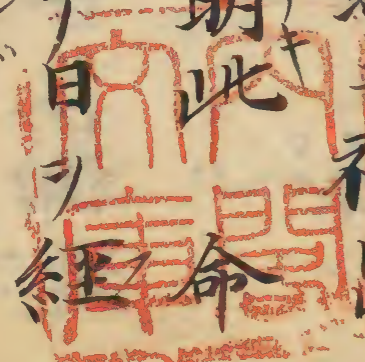
一戰ニ味方利ヲ失フ事アラハ却テ後戰

猶安カルベキノ旨 命ゼラル、ノ由ヲ

村越竊ニ直政忠勝ニ談ズ直政忠勝是ヲ

聞テ此命曾テ宜シカラス大神君不
日ニ江城御進發アリ諸將此地ニ陣スル
ノ勞ヲ問セ給フノ御旨ノミニテ其餘
ノ言ヲ必ス諸將ニ説クベカラスト直政
忠勝堅ク制止ス村越是ヲ諾ス村越退テ
按ズルニ今度ノ御使ニハ思慮深キ老兵
カ或ハ武功ノ勇士ヲ指越ルベキニ然ラ
ガハ愚意ノ村越ヲ以テ御使トメ命ヲ奉
ル

ル事 台命ノ趣ヲ卒忽ニ諸將ニ相ニ傳
ヘシメンガ為ナルベシト思慮ス村越ガ
當著ノ告ヲ聞テ諸將皆清洲ニ相集ル時
ニ村越直政忠勝ガ旨ニ應ゼス大神君
ノ御旨ノ趣ヲ委細ニ諸將ニ述時ニ福島
左衛門大夫正則加藤左馬助喜明此
ヲ聞テ諸將歴々此地ニ集リ居テ日ヲ經
ルト云ヘトモ此慮ナキ事最モ面目ナシ



先罪ヲ悔テ不日ニ一戦ニ其軍功ヲ顕ス
ベキノ由村越是ヲ達スベキノ旨各御返
答シス

北日 大神君御書ヲ遠藤左馬助ニ賜ル

義濃國之内郡上郡之度為忠臣一命を
主作令て之知新作委細令東作中
て守作之説

八月九日

家康

遠友左馬助

北一日 東國ヨリ馳上ルノ諸將清洲ニ
來會メ攻テ岐阜ノ城ヲ拔ント軍ノ謀ヲ
議ス福島左衛門太夫正則謂テ云ク味方
ノ兵岐阜ヲ先ツ攻ン事ヲ敵モ豫メ是ヲ
推蜜メ大山ノ城ヨリ岐阜ニ後援アルノ
由其聞エアリ然ルニ於テハ大山ノ城ヲ
攻ムベキノ由ヲ兼テ陣中ニ觸促サバ敵

其旨ヲ傳ヘ聞テ大山ヨリ岐阜ニ来ルノ
援兵等皆岐阜ヲ捨テ大山ニ列返スベシ
其時指シ違一テ敵ノ跡ヲ渡リ岐阜ノ城
ヲ攻ベシ岐阜ノ城陥ルニ於テハ大山ノ
敵ハ已レト退散スベシト相討ル諸將各
此儀ニ同メ明元二日ノ曉天ニ大山ノ城
ニ發向スルノ間其用意アルベキノ旨
敷陣中ニ觸催ス敵ノ謀者是ヲ聞テ急キ

大山ニ告ル亦石川備前守伊藤對馬守兩
人ノ方ヨリ飛使ヲ岐阜ニ馳テ是ヲ告ル
是ニ依テ大山ヨリノ援兵稻葉右京亮同
姓彦六郎加藤左衛門佐等此告ヲ聞テ岐
阜ヲ弃テ大山ノ城ニ馳歸ル依テ福島ガ
思フ圖ニ是ヲ謀ル
東國ヨリ馳上ルノ諸將等相議メ岐阜ノ
城ヲ攻ル軍列ヲ定ム福島左衛門太夫正

則ツホテシ大手ノ首將シエロトメ羽柴越中守忠興シキト藤堂佐渡守高虎タカトラ黒田甲斐守長政加藤左馬助喜明ヨシアキ田中兵部少輔長政其子民部太輔生駒讀岐守一正寺澤志摩守廣高峰須賀長門守至鎮京極侍從高知井伊侍從直政本多中務太輔忠勝等萩原ノ渡リヲ越テ岐阜ノ城ニ發向セント定ム池田三左衛門尉輝政テルニシ搦手ノ首將トメ池田備中守

忠吉淺野左京大夫幸長山内對馬守一豊有馬玄番頭豊氏戸川肥後守達安一柳監物直盛堀尾信濃守忠氏木下右兵衛尉等北方河田ノ渡ヲ越テ岐阜ニ相向ハント議ス時ニ輝政ガ云ク岐阜ノ城押ヘトメ搦手ニ向フ事本意ニ非ス願クハ大手ノ陣ニ發向メ先陣ニ軍忠ヲ勵ント請フ直政忠勝是ヲ聞テ大神君ノ御勝利ヲ思

ハズ自身ノ武名ヲ心懸ルノ糸輝政ニハ
似合サルノ由ヲ相諫ルニ依テ池田理ニ
屈メ是ニ應ズ

真田安房守昌幸次男左衛門佐父子野州
小山ヨリ信州ニ歸テ小懸伊勢山ニ要害
ヲ構テ旗ヲ揚ル嫡子伊豆守信幸ハ
大神君ノ御味方タルニ依テ父ノ昌幸輕卒
ヲ出メ信幸ガ領内ノ邑里ニ放火ス是ニ

依テ信幸止ム事ヲ得スメ兵ヲ發メ父
昌幸ガ取手伊勢山ノ砦ヲ攻テ其利ヲ得
タリ此由ヲ江戸ニ至テ註進ス依テ

大神君ヨリ御書ヲ信幸ニ賜ル

由状收見祝々云々此乃信州に合津
に境目由重等文支事等付中元ニ

由文云々表々成事細事由状等付
を非余能くこと此は流石なる流し

八月廿一日

家康

大田原迄方後

廿二日 池田輝政淺野幸長山内一豊有
馬豊氏戸川達安堀尾忠氏一柳直盛等軍
ヲ發メ河田ノ川岸ニ臨ム逆徒百々越前
守三千餘ノ兵ヲ卒メ新加納ニ出張シ向
ヒノ川岸ニ輕卒ヲ進テ川表ヲ防ガント
相支ル一柳監物直盛ハ此邊黒田ヲ領知

スルノ間兼テ川ノ案内ハ能ク知リタリ
其上前夜亥ノ刻ニ及テ竊ニ人ヲ遣ハシ
メ木曾川ノ浅深ヲ委ク討リ知ル是ニ依
テ今日午ノ刻ニ至テ一柳直盛木曾川ノ
下ノ瀬ニ馬ヲ入テ涉ス輝政ガ先陣伊木
清兵衛尉是ヲ見テ上ノ瀬ノ漲ル浪ニ馬
ヲ馳入ルレバ淺野堀尾等是ニ次テ軍勢
各川ヲ涉シ向ヒノ岸ニ上テ関ヲ發メ攻

懸ル岐阜ノ城將中納言秀信闇魔堂ニ出
張メ軍使シメ下知ヲナス敵暫ク川岸ニ
相支テ拒ギ戦フト云ヘトモ味方ノ猛勢
川ヲ涉リ競ヒ懸テ奮撃ノ間防グ事ヲ得
ズ敵悉ク敗走ス御味方ノ軍士等はヲ追
撃ツ事ニ里百々越前守津田藤兵衛尉其
子津田藤三郎數度返シ合テ相戦フ津田
藤三郎赤掛ル殿母衣ヲスカ子魚松又四郎黄ナ

是ヲ追懸數刻相戦フト云ヘトモ其
雄ヲ決セズ此ニ至テ戸川肥後守達安
鍵ヲ合テ戦功ヲ尽ス飯沼勘平ヲ池田備
中守長吉撃テ其首ヲ得タリ藤田權左衛
門尉ヲ輝政ガ軍士是ヲ撃取ル其餘前田
十左衛門尉武市善兵衛尉小川藤兵衛尉
等ヲ始七百餘人は是ヲ追撃テ首級ヲ得タ
リ岐阜ノ城ヨリ布施屋ニ至テ敵出張メ

陣スルトイヘドモ新加納ノ味方勝ニ兼
テ夥敷關ヲ發メ競ヒ来ルノ間敵布施屋
ヲ退散メ岐阜ノ城ニヒキ入ル御味方ノ
軍勢其夜ハ川邊ニ屯ス今日河田ノ渡リ
ヲ越テ新加納ノ軍ニ逆徒ヲ數百人擊捕
ルノ由池田輝政檄ヲ江戸ニ飛メ註進ス
萩原ノ渡リニ相向フ大手ノ軍勢福島正
則羽柴忠興藤堂高虎黒田長政加藤喜明

田中長政京極高知生駒一正寺澤廣高井
伊直政本多忠勝等各舩筏ヲ組テ川ヲ濟
シ向ヒノ岸ニ上テ近邊ノ民屋ニ放火メ
太良堤ニ陣スルノ處ニ脚力来テ云ク今
日午ノ刻北方搦手ノ首將池田輝政川ヲ
涉シ新加納ニメ大ニ戰テ敵數百人ヲ討
捕ルノ由其日黄昏ニ及テ告来ル福島是
ヲ聞テ當手ハ大手ノ先隊トメ搦手ノ勢

ニ先キヲ越シイニダ此陣ノ戦功ナキ事
無念也ト首將福島ヲ始テ諸士皆怒ラ含
テ其夜ノ戌ノ刻ニ至テ軍勢ヲ發メ岐阜
ノ城下桑木原ニ攻寄セ寅ノ刻ニ及ビ進
テ町口ノ捲門ニ押詰ル
廿三日 黎明寄手ノ軍勢関ヲ發メ岐阜
ノ城下高町ヲ破ル搦手ノ首將池田輝政
及ビ浅野幸長馳来テ福島ト争テ町口ニ

攻入ル岐阜ノ城ノ取出瑞龍寺ノ砦ハ柏
原彦右衛門尉是ヲ守ル浅野幸長加藤喜
明羽柴忠興福島正則等先鋒ノ軍勢攻テ
是ヲ破ル城兵拒ギ戦テ敵味方互ニカシ
尽ス福島進テ奮戦フ寄手ノ猛勢頻リニ
攻上ルノ間瑞龍寺ノ砦遂ニ破ル敵ノ部
將柏原彦右衛門尉ヲハ浅野幸長ガ軍士
岸六左衛門尉ガ從卒是ヲ撃捕ル佐藤主

殿助勇ヲ震テ戦死ス川瀬左馬允瑞龍寺
ノ塔ヲ弃テ岐草ノ城本丸ニ敗シ入テ中
納言秀信ト一所ニ加ル大手七曲口ニシ
テ木造左衛門佐津田藤兵衛尉其子津田
藤三郎百々越前守等蹈留リ坂中ニ於テ
奮戦フ平則忠興喜明等一所ニ集リ士卒
ヲ指揮メ相戦シム坂口ヨリ武藏峯ノ間
ニ於テ敵兩度小返メ味方ノ兵ヲ追拂フ

味方亦敵ヲ慕テ攻登ル爰ニ於テ忠興ガ
從卒柳田半从駒平三郎ト組テ是ヲ撃捕
ル忠興ガ兵澤井戈八郎中島傳左衛門尉
ヲ撃テ其首ヲ得タリ武藏峯ニメ暫ク支
テ敵味方互ニ苦戦ス城兵遂ニ利シ失ヒ
ヒキ退テ七間櫓ニ楯籠ル福島カ兵士吉
村又右衛門尉險阻ヲツタヒ門ヨリ脇ノ
櫓ニ登ル福島カ從卒等五六騎吉村ニ相

次ク京極侍從高知荒神が洞柴田古屋敷ヨリ達目口ヲ攻登ル池田輝政福島ト先キヲ相争テ岐阜ノ町口ニ至テ攻入ルノ時福島川越ノ軍ニ池田ニ戦功ヲ越レ其遣恨アリニ依テ池田ガ軍勢城中ニ攻入ラント進ム先途ノ家ニ火ヲ放テ焼立ル池田ガ軍士等煙ニ隔テラレ進ム事ヲ得ス池田怒テ其攻口ヲ弃テ長良川ノ邊ニ

廻リ水ノ手ヨリ攻登テ城ニ乱入シ輝政ガ旗ヲ本丸ニ建ル寄手ノ多勢夥敷攻撃ノ間城兵利ヲ失テ本丸ニ窮迫ス時ニ木造左衛門佐降ヲ乞テ和儀成ル城主秀信岐阜ノ城ヲ避ケ渡メ城下ニ於テ自殺セントス福島正則是ヲ押留メ削スルニ依テ自害ヲ止テ芋洗ノ里ニ下ル高野山ニ於テ病歿ス岐阜ノ城ヲ避ケ渡スノ間福島正

則城ヲ請取ラント欲ス亦池田輝政是ヲ
論メ云本城ニ先登メ旗ヲ建ル事我ヨリ
先ニスルモノナシ然ルニ於テハ輝政城
ヲ請取ント争ヒ論ス直政忠勝等正則ヲ
諫制スルト云ヘトモ正則曾テ許容セズ
時ニ輝政ガ云ク前ニ大敵アリ今爰ニ武
刃ヲ争フハ忠ニ非ズト謂テ直政忠勝ニ
任ス是ニ依テ遂ニ正則ヲメ岐阜ノ城ヲ

請取ラシム此日正則輝政檄ヲ飛メ岐阜
ノ城陥ルノ由江戸ニ註進ス岐阜ノ城後
援トメ石田三成ガ軍士杉江勘兵衛尉森
九郎兵衛尉兵ヲ發メ河田ノ堤ニ出張ス
又島津ガ軍勢後陣ニ次ク黒田甲斐
守長政藤堂仇渡守高虎田中兵部太輔
長政生駒讚岐守一正等岐阜ノ城寄
手ノ先陣速ニ城ヲ陥レ敵ヲ悉ク討捕

ルノ由ヲ聞テ爲方ナキ處ニ岐阜ノ城後
詰トメ敵河田ニ出張スルノ告ヲ聞テ是
吾等ガ今日ノ職分ナリト勇ニ悦テ軍ヲ
發メ是ニ向フ然リトイヘトモ川浪野敷
漲リ落渉ルベキ様ナシ時ニ田中兵部太
輔ガ寄口ニ浅キ瀬ヲ尋出メ田中長政進
テ川ニ乘入ルノ間諸卒皆是ニ次テ一同
ニ川ヲ渉ル敵川岸ニ出向テ是ヲ拒グト

イヘトモ多勢川ヲ渉テ其勢ニ乗メ奮
撃ノ間敵忽ニ敗北ス是ヲ追フ事一里餘
黒田長政自ラ鎧提ゲ北ルヲ追テ石田ガ
軍士渡邊新之助ヲ撃捕ル部將手ヲ碎テ
力戦スルノ故其手ノ士卒等猶軍功ヲ尽
ス石田ガ臣杉江勘兵衛尉殿メ退ク田中
ガ從士辻勘兵衛ト名乗テ杉江ヲ鎧付ル
松原善左衛門尉爰ニ馳來テ松江ガ首ヲ

得たり其餘御味方ノ軍勢首ヲ得ル事數
百級敵悉敗亡ス森九郎兵衛尉ハ堤ヲツ
クヒテ大垣ノ城ニ北ケ入ル

此日 台徳院殿ヨリ御書ヲ真田伊豆守
信幸ニ賜ル

然ルニ此作以四女曰此比子まらいに
相勵み東より水より作る波表
このまじりも法作於大之深相模なる依

渡りて中作らる、流

八月廿三日 秀忠

大田伊豆守

北四日 台徳院殿真田安房守昌幸御征
伐トメ江城御首途有テ信州ニ御進發ア
リ供奉ノ輩大久保相模守忠隣同姓治右
衛門尉忠佐本多佐渡守正信榊原式部太
輔康政酒井備後守忠利其子忠勝本多義

濃守忠政本多豊後守康重酒井宮内太輔
家次森右近太夫忠政仙石越前守諏訪小
太帛頼水日根野筑後守石川玄番頭等三
万八千七十餘騎
台徳院殿信州ニ著御真田安房守昌幸ガ
楯籠ル上田ノ城ヲ圍メシメ給フ御味方
ノ軍勢城近キ邊ニメ苅田スルノ處ニ城
中ヨリ輕兵ヲ發メ是ヲ追ヒ拂ント欲ス

是ヲ監スル御味方ノ軍士朝倉藤十郎宣
政後ニ筑後守ト号ス齊藤久右衛門尉小野次郎右
衛門尉辻太即助戸田半平鎮目市左衛門
尉中山勘解由左衛門等七人進テ相戦ヒ
鎧ヲ合敵ヲ城門ニ追入ル世ニ是ヲ真田
太田善太夫弓ヲ以テ鎧脇ノ敵ヲ射ル牧
野右馬允康成其子駿河守忠成本多義濃
守忠政ガ軍勢等是ニ次テ競ヒ攻ム忠政

ガ軍士浅井小兵衛尉小田角右衛門尉能
ク戦フ本多佐渡守正信大久保相模守忠
隣是ヲ制メ御味方ノ軍勢ヲ引取ラシム
時ニ台徳院殿命有テ曰軍令ヲ背テ列
ヲ乱シ卒余ニ拔懸スルノ条曲事タルノ
旨魁八人ノ士ヲ怒リ給ヒ本多忠政牧野
康成ガ魁隊長ノ士ヲ誅スベキノ由命
セラル、時ニ牧野言上メ云ク全ク従卒

等ガ卒余ニ非ス康成ガ指揮メ是ヲ戦カ
ハシム進テ康成其罪ニ死ナント言テ従
士ヲ殺サス 台徳院殿是ヲ御憤有テ
牧野康成其子忠成及ビ魁八人ノ士ヲ其
科役トメ我妻ノ答ヲ守ラシメ給フ
市橋下總守長勝 大神君ノ鈞命ヲ奉テ
野州小山ヨリ福島正則ト相伴テ長勝ガ
居城濃州今尾ノ城ニ歸リ来テ是ヲ守ル

今尾ノ城ノ拒トメ逆徒高木八郎兵衛尉
多藝ニ陣ス丸毛三郎兵衛尉ハ福塚ノ城
ニ在テ大垣ノ城將伊藤彦兵衛尉ト相議
シテ藤川ノ向ニ岸大久禮村ニ陣ヲ張
ル市橋長勝城中ヨリ賀地村ニ出張メ川
ヲ隔テ矢軍ヲス八月廿四日ノ黎明ニ長
勝不意ニ川ヲ涉テ相戦ヒ丸毛伊藤ヲ追
ヒ退ケ其利ニ乘テ進テ福塚ノ城ヲ圍ム

城將丸毛城ヲ避ケテ大垣ニ走ル是ニ依
テ長勝福塚ノ城ニ入替テ是ヲ守リ大垣
ノ城ノ通路ヲ指塞グ大坂ノ城ヨリ大垣
ニ遣ス内通ノ陰書ヲ携ヒ忍ビ通ル者ヲ
度々ニ生捕テ福島ガモトニ遣ス
稻葉藏人通道 大神君ノ台命ヲ奉テ野
州小山ヨリ馳歸テ岩手ノ城ヲ守ル九鬼
大隅寺嘉隆近境ニ在テ常ニ不和也是ニ

依テ嘉隆兵ヲ發メ岩手ノ城ヲ窺フ城主
通道郭外ニ出張メ輕卒ヲ進メテ是ヲ拒
グノ間嘉隆戰フ事ヲ得ズ兵ヲヒイテ退
散ス

是ヨリ先キ富田信濃守野州小山ニ在陣
スルノ時 大神君富田ニ 命有テ勢州
ノ渡海安カララサレハ上方ノ手遣ヒ自由
ナラス汝速ニ本國ニ馳歸テ渡海ノ往來

自由ナラシムベキノ由 御旨ヲ奉テ分
部ベ九京亮ヲ相伴テ小山ヲ發メ三州吉田
ニ至テ小船百餘艘ヲ相促シ勢州ニ赴ク
沖中ニ於テ九鬼嘉隆ガ賊船ニ行逢フ時
ニ富田ガ船ニ鎰ヲ打掛嘉隆ガ船ニ列付
ル富田旧友ノ好シ陳ル是ニ依テ纜ヲ解
テ免シ放ツ富田鯨ノ口ヲ遁レテ津ノ城
ニ歸リ入ル分部ハ吾ガ居城上野ノ城要

害悪メ守リ難キニ依テ津ノ城ニ加リ東
方ノ口ヲ警衛ス

古田兵部少輔重勝小山ヨリ松坂ノ城ニ
歸入ルト云ヘトモ敵イマダ寄セ来ラガ
ルノ間士卒ヲ分テ津ノ城ニ加ル昨九三
日ノ曉天ヨリ逆徒ノ軍勢津ノ城ノ東北
ヲ圍テ攻ム此日ニ至テ毛利ガ軍勢城ノ
西ノ方ヲ廻テ南門ヲ攻破リ二三ノ丸ニ

乱入ス東方ノ口ハ分部是ヲ守テ拒ギ戦
フトイヘトモ完戸備前守多勢ヲ以テ攻
撃ノ間防グ事ヲ得ズ分部兵ヲ城中ニヒ
キ入ル毛利ガ魁兵是ニ次テ城ニ攻入ル
城兵苦戦メ是ヲ追出メ城門ヲ閉ル毛利
ガ先隊中川清左衛門尉進テ城ニ攻入ラ
ント欲メ戦死ス井上清右衛門尉城中ニ
紛レ居テ翌朝首ヲ提ゲ遁シ出ル

北五日 大神君大田原備前守ニ御書ヲ
賜ル

急度中作上方へ出る作儀を先ニ延川夏
元ニ在り事作自統系勝之にこの儀
お其儀を以て、この儀を以て家付で打果
作方々中を以て、この儀を以て

八月廿二日 家康

大田原備前守

北六日 池田三左衛門尉輝政が河田合
戦ノ註進狀今日午ノ刻江戸ニ参著ス
大神君其戦功ヲ褒セラレ輝政ニ御書ヲ
賜ル

北二日 輝政は北六日午ノ刻江戸ニ参著ス
之を先川表相抱作儀を以て一戦数千人
討捕の鼻ハ、この儀を以て、この儀を以て、
大田原備前守

流

八月廿六日

家康

云田河原

此日津ノ城中ヨリ矢文ヲ飛メ和睦ヲ調
 一城ヲ避ケ渡シ城將富田落髮メ高野山
 二走ル則津ノ城ニハ蔣田中郷山崎等入
 替テ是ヲ守天下混一ノ後 木神君
 大神君先日御使トメ遣ハシメ給フ安藤

次右衛門尉正次尾州清洲ニ至リ岐阜ニ
 往テ敵城ノ没落ヲ巡視メ今日歸来テ
 台聽ニ達ス時ニ大神君敵ノ尸骸何レ
 ノ方ニ向フト問セ給フ正次ガ云ク大垣
 ノ方ニ向フ大神君是ヲ聞給テ敵ノ敗
 亡ヲ知リ給フ
 廿七日 池田輝政福島正則岐阜ノ城ヲ
 攻落スノ註進狀今日未ノ刻ニ至テ江戸

ニ参著ス 大神君御感悦不浅又御書ヲ
輝政ニ賜ル

波阜之御子、此後身成沙也、
宛中、是は水中地言、中山道一の押上
之、聊爾、松、沙、御、考、一、此、我、亦、父、子、而、治、也、
此、之、流、也、

八月廿七日

家康

右田侍迄

此日 大神君池田備中守長吉ニ御書賜

おと度、之、教、之、如、先、子、の、ある、之、文、情、と
自身、沙、言、也、子、速、波、阜、之、亦、前、此、宛、也、
中、ト、是、此、中、地、言、也、中、山、道、一、上、之、也、
中、ト、是、我、亦、也、此、は、出、る、之、中、地、言、也、
余、松、沙、御、考、一、此、我、亦、父、子、而、治、也、

八月廿七日

家康

池田滿中丞後

此日井伊直政本多忠勝ト議メ一柳監物
直盛モリヲメ長松ノ城ヲ守ラシム石田三成
福原右馬助ト相謀テ間諜ヲ以テ長松ノ
城ヲ度々ニ窺フ直盛士卒ニ下知メ若シ
他邦ヨリ来ル者アラバ僧俗ニヨラス是
ヲ搦捕ルベシト云云大垣ヨリ来ル者ア
リ是ヲ四人生捕テ大垣ノ奇謀ヲ問フ

廿八日

藤堂佐渡守高虎ガ註進ノ使者

今日江戸ニ至テ參著ス其使池田久兵衛

尉ニ黄金十兩ヲ賜ル

此日大神君浅野彈正少弼長政ニ御書

ヲ賜ル

書状投見申候由去廿二日川越コシ及

一戦シ救子人ヲ討捕翌日廿三日設キ鼻城

と宗取一人も不渡皆討候由進シウテ宗

交ニ波阜之人教志ん野相支作或野上

其有松原之類と紙及一我追能可渡也

石残討捕作事

一 元三日波阜惣振と破名時宗前交毒

志ニ康あ好と心様と法を作る自命

相助作事

一 同日波敷の捕津志共為後法卿戸

我若作或名宗向追崩るくの川邊入

一人も石渡と討捕作事

一 在留自御利止押法作由ト其公定る程

有向友作事

一 以朔日とて初る事

一 自他系勝相働作去城と堅固と松原

此外要作事

一 亦其口相働志平宗王の守者志系房

伊後流野快理交平宗王計改松平

不意^ニ其^レ名^ノ居^ル所^ニ東^ノ松^ノ本^ノ又^ハ八^ノ月^ノ付^ル分^ノ頭^ノ
の^レ乱^ニ入^リ此^ノ条^ニ之^レに^テ堅^ク固^クニ^テ相^シ抱^ク事^ナル^ニ
事^トシ^テ之^レを^シ清^クシ^テ

八月廿九日 家康

羽柴義俊殿

此日堀尾信濃守忠氏ニ 大神君ヨリ御
書ヲ賜ル

今度濃州表公我^レ別^ニ其^レ方^ノ家^ノ中^ニ

討^ツ捕^メ首^ヲ取^リ文^ノ之^レ後^ニ見^ル誠^ニ心^ニ也^ト信^ス成^ル大^ニ決^ス
も^テ柄^ノ中^ニ松^ノ本^ノ之^レ信^ノ指^シ明^ク日^々之^レお^シる^事其^レ
長^ク作^ル之^レ清^ク

八月廿九日 家康

堀尾信濃守殿

九鬼長門守守隆 大神君ノ台命ヲ奉テ
池田輝政ト相伴テ野州小山ヲ發メ三州
吉田ニ到リソレヨリ本國勢州ニ馳歸ル

父大隅守嘉隆逆徒ニ與メ長門守カ鳥羽
ノ城ニ殘シ置ク從卒等ヲ追出メ紀州新
宮ノ城主堀ノ内安房守ヲ招テ彼ト共ニ
鳥羽ノ城ニ楯籠ル長門守檄ヲ東國ニ飛
メ此由シ大神君ニ註進スルノ處ニ守
隆ニ任セラル、ノ間宜ク謀ルベキノ旨
命ゼラル、ニ依テ長門守使ヲ父大隅守
及ビ安房守カ許ニ遣シ鳥羽ノ城ヲ避ケ

渡スベキノ由數回言ヲ尽シ和ヲ請フト
イヘトモ兩輩敢テ聽サズ長門守爲方ナ
ク同國畔衆ノ旧墨ニ俄ニ要害ヲ構ヘテ
是ヨリ後父子屢挑戦フ長門守カ從卒村
田七大夫工藤祐久森田右近大夫等多ク
戦死ス敵モ堀ノ内ガ臣諸政所其餘多ク
命ヲ殞ス逆徒氏家内膳正桑岩ノ城ヨリ
兵ヲ發メ畔衆ノ城ヲ攻ム長門守是ト奮

戦テ大ニ勝テ首級ヲ得タリ則其首ヲ持
タシメ東國ニ献ズ

伊賀國上野ノ城主羽柴伊賀守野刈小山

ヨリ本國ニ馳歸ルト云ヘドモ伊賀守イ

ハダ歸國セガルノ以前ニ城ニ残シ置キ

是ヲ守ラシムル從卒等上野ノ城ヲ避テ

逆徒ニ開渡スノ由伊賀守途中ニ於テ此

告ヲ聞テ進退途ヲ失テ後関箇原ノ魁兵

ニ相加ル

濃州高松ノ城主徳永壽昌 大神君ノ鈞

命ヲ奉テ野刈小山ヨリ高松ノ城ニ歸リ

来テ是ヲ守ル

長島ノ城ハ福島掃部助野刈小山ヨリ歸

テ是ヲ守ル掃部助微勢タルニ依テ山圍

道阿弥援兵トメ是ニ加ル

逆徒原隠岐守長島ノ城ノ拒ギトメ太田

ノ城ニアリ
大垣ノ城ハ逆徒ノ首將石田治部少輔小
西撰津守備前中納言島津兵庫頭同姓中
務少輔福原右馬頭熊谷内蔵助伊藤長門
守木村宗右衛門尉其子木村傳藏九毛三
郎兵衛尉初福塚ノ城ヲ守後秋月三郎垣
見和泉守高橋主膳正同姓九郎二万三千
六百餘騎是ヲ守ル

大山ノ城ハ逆徒石川備前守本丸ニ在リ
稻葉右京亮貞通其子稻葉彦六郎典通關
長門守等ニ大坂ヨリ弓鉄炮ノ輕卒ヲ加
ヘシメ援兵トメ大山ノ城ニ来リ加ル其
兵七千七百餘騎
遠藤左馬助西尾豊後守兵ヲ發メ稻葉右
京亮貞通ガ居城郡上ノ城ヲ襲ヒ攻ム稻
葉父子大山ノ城ニ在テ此告ヲ聞テ軍ヲ

發メ拒ギ戰フ金森兵部卿法印長近其子
金森出雲守可重東國ヨリ歸テ遠藤西尾
ニ加テ郡上八幡ノ城ヲ攻撃ツ金森ガ從
卒西脇吉助同姓左近太夫平井孫四郎飯
沼弥左衛門尉等能ク戰テ首級ヲ得タリ
遠藤西尾ガ軍士各軍功ヲ尽ス兼テ稻葉
モ志ヲ大神君ニ通ジ麾下ニ屬メ軍忠
ヲ勵サン事ヲ願フト云ヘドモ壬戌ガ催

促ニ依テ是非ナク一端是ニ從フ時ヲ窺
ヒ大神君ニ屬セン事ヲ請フ此旨ヲ竊
ニ遠藤西尾ニ告テ遂ニ和儀成ル
神戸ノ城ハ逆徒羽柴下總守是ヲ守ル其
兵八百餘騎
水口ノ城ハ逆徒長束伊賀守大藏太輔ガ弟是ヲ
守ル其兵三百六十餘騎
亀山ノ城ハ逆徒岡本下野守是ヲ守ル其

兵六百三十餘騎

乘岩ノ城ハ逆徒氏家内膳正是ヲ守ル其

兵七百餘騎

海上ノ城及ヒ鳥羽ノ城ハ逆徒九鬼大隅

守是ヲ守ル其兵四百餘騎

曾祿ノ旧墨ハ松下石見守是ヲ守ル逆徒

島津氏樂田ニ陣メ度々輕卒ヲ進メテ曾

祿ノ墨ヲ侵シ龍毛ノ町ニ放火ス井伊直

政本多忠勝水野六九衛門尉勝成ヲ招テ

是ヲ議メ勝成ヲメ曾祿ノ墨ヲ守ラシム

島津重テ輕兵ヲ出メ曾祿ノ墨ヲ襲ハン

ト欲ス水野勝成兵ヲ發シテ夥敷是ヲ拒

グノ間島津ガ軍勢狼狽メ敗亡ス其後再

ビ敵此墨ヲ窺フ事ヲ得ス又松平丹波守

康長本田勝成ニ加テ曾祿ノ墨ヲ守ル



